

次第

■ 1.開会

■ 2.議題

議題（1）庁内及び懇話会の意見について

資料 1 の説明

○市庁内での意見

- ・市庁内全課に計画のたたき案について、2月から3月初めにかけて意見聴取を実施。誤字の修正や表記の統一、公共建設マネジメント課が策定している公共施設等総合管理計画との整合性をとる必要がある等の意見があがる。そのほとんどを意見通り修正、公共施設等総合管理計画との整合性では、素案 40 ページ一番下、下線部分の 3 行を追記。

○庁内作業部会での意見

素案について

- ・ 23 ページ「3 今後の施策推進に向けた課題」の 6 つの課題が読みにくいとの意見があがったため、見出しをつけ整理。
- ・ 45 ページ、(2) 評価指標の「めざそう値」の数値が低いのではとの意見があがる。表の 1 段目「この 1 年間に芸術・文化活動（コンサートや演劇などの鑑賞を含む。）を行ったことがある市民の割合」は、市企画課が行っている調査結果の数値を記載しており、令和 4 年の現状値は 27.2%。第 1 期計画策定時の平成 26 年の現状値は 41.5%（平成 30 年の「めざそう値」が 43.1%）であり、コロナ禍以前の令和元年度は、46.8%まで増加していた。表の 2 段目「市民一人あたりの文化施設*（会議系諸室を除く。）年間利用回数」は、令和 3 年の実績は 2.2 回。こちらも第 1 期計画策定時の平成 25 年は 3.1 回（平成 29 年の「めざそう値」は 3.1 回）であったが、コロナ禍以前の令和元年度は、3.4 回まで増加していた。いずれも、コロナ禍以後に急激に低下。懇話会でも、この落ち込みに対しての考察が必要との意見があがったため、コロナ禍の影響による数値の減少についての言及とコロナ禍以前の水準に近づけていくよう「めざそう値」を設定したことを追記。また、作業部会では、「この 1 年間に芸術・文化活動（コンサートや演劇などの鑑賞を含む。）を行ったことがある市民の割合」のコロナ禍以前の数値が 40%以上だったことより、「めざそう値」が 30%では低いのではとの意見があがった。ただ、「この 1 年間に芸術・文化活動（コンサートや演劇などの鑑賞を含む。）を行ったことがある市民の割合」の「めざそう値」は、市の総合計画である「将来ビジョン・岸和田」に記載している目標値であるため、令和 8 年の 30%の変更はできかねる。そこで、この文化振興計画が令和 10 年までの計画であることに注目し、令和 8 年以降もさらに伸びていくよう 32.0%という目標値を設定。

- ・アーカイブ化などの DX について意見があがる。しかし、オンライン分野の変化はめまぐるしく、具体的な名称を書き込むと新しいものが出てきた時に流れにそぐわなくなってくる恐れがあることを考慮し、26 ページ、重点目標 2 にあげている「効果的な情報発信を行う」とだけの記載にとどめている。

文化活動について

- ・保育所現場でもオンライン化が始まり、市が実施する事業でもオンライン配信の検討や、試験的な取り入れなど徐々にオンライン化の流れがすすんでいる。しかし、実際の現場でしか体験できないこともあるため、体感してもらうことを主軸に進めていくべきという意見や、文化活動を行っている方々の支援のためにも、きちんと謝礼を支払うべきとの意見があがる。

懇話会について

資料 2 の説明

資料の修正

- ・「2 コロナによる文化活動の影響について」の 2 つ目、「43 ページ」を「45 ページ」に修正
- ・第 2 回岸和田市文化振興計画懇話会を 2 月 22 日に開催。
- ・コロナ禍の影響で文化活動が大打撃を受けているのにその支援について書かれていないことや、評価指標が大きく下がったことの考察がないなどの意見があがる。文化活動の具体的な支援を計画に明記は出来ないが、情報発信の強化ができれば、経済的な支援が難しくても、側面的な支援が可能ではないかと考えている。
- ・コロナ禍に関する考察について、素案 45 ページの「(2) 評価指標」だけでなく、23 ページ「3 今後の施策推進に向けた課題」の下線部分を追記。

(会 長) 「めざそう値」の数値が低いという話があったが、素案 45 ページにコロナ禍以前の数値を明記してはどうか。コロナ禍による打撃がわかりやすい。

(事務局) コロナ禍以前の数値について素案ではどこにも記載がされていない。コロナ禍以前まで増加していた数値がコロナ禍の影響で大きく下がったということが、数値を入れることで視覚的に訴えることができると考える。

(会 長) 現在の表に追加してもよいし、参考として枠外に別表を作成してはどうか。

(事務局) (2) の本文に追記するというのも一案ではないか。

(会 長) 芸術文化はデジタル化が難しいものであるが、数字のもつインパクトも強いため、記載すべき。

- (委員) 素案 1 ページの文章が改善され、文化に興味を持てる文章になっているように思う。さらに良くするためにチャット GPT を利用してはどうか。現在の文章をみると、「豊か」と同じ言葉も多く使用しているなど改善点もあるように思う。誤字脱字の確認にも使えるので業務の効率化にもつながると思う。
- (委員) チャット GPT では、「熱意を込めて」や「晴れやかに」等の条件をつけての作成も可能。自分が普段使わないような言葉を提示されるので、活用するのも良いと思う。
- (会長) 使い方次第ではないか。チャット GPT を利用しつつ、自分たちの言葉も加える等して、より良いものにするのはよいかと思う。
- (委員) 素案 11 ページや 12 ページに「生活文化」という言葉が使われているが、生活文化という言葉は芸術文化に対応する言葉であり、日常生活全般を指すと考えている。ここでの「生活文化」は何を指しているのか。
- また、11 ページの文化・芸術を直接鑑賞した人の内容別割合に映画があり、直接映画館に出向き鑑賞した人を指しているように思うが、岸和田市では映画館はそれほど多くないと思う。どのような場所での鑑賞を想定したのか。
- (事務局) 映画鑑賞については場所をどこかという指定はしていない。岸和田市内に住んでいる人が大阪市内の映画館で鑑賞していれば〇で回答していると思う。場所を限定せずに、岸和田市民がどのように芸術・文化に親しんでいるかを把握するためにアンケートを実施した。
- 「生活文化」という言葉についてだが、主に「茶道・華道・書道」を位置付けている。
- (委員) 「生活文化」というと、私の認識では創作活動だけでなく、暮らしに関わる全てのことを意味する表現であると思う。現在の表現では「茶道・華道・書道」を示していることがわかりにくい。
- (事務局) ここでいう「生活文化」は文化芸術基本法第 12 条で定義されている内容であり、「茶道、華道、書道、その他の生活に係る文化」となっているため、そのように認識している。
- (委員) 芸術文化の中で伝統的な分野を「生活文化」という言い方をしているように思う。日常生活を意味する広い意味での生活文化に当てはめていないのだから、そのことがわかるように注釈等でわかりやすいようにすべき。
- (会長) 法律の定義に沿っているのであれば、その旨を注釈として追記するべきである。
- (事務局) 第 1 期計画でも同じような言葉を用いてアンケートを実施したという経緯もあるため、整合性も考慮しながら、加筆を検討する。

議題（2）（仮称）文化 花 咲かそう推進プラン—第2期岸和田市文化振興計画（素案）について

資料の修正

- ・ P.28 記載の「基本目標Ⅲ まちの魅力を高める」の表の関連文化振興条例に、第14条を追加
- ・ P.29 の「基本目標Ⅳ 未来へつなぐ」の表の関連文化振興条例に、第12条を追加

たたき案からの変更点を説明

- ・ 1 ページ、第1章の「1 プラン策定の背景と趣旨」について、冒頭に、文化の意義について記載。前回の審議会で、文化というものが魅力的なものであること、このプランが岸和田のプランとわかるように具体的に記載すること、子どもを重視した視点を盛り込むことなどの意見があがったため、意見を参考に修正。
- ・ 23 ページ「3 今後の施策推進に向けた課題」のリード文にコロナ禍による影響の考察の追記と、6つの課題につき3つの見出しに分けて整理。
- ・ 28 ページ「4 施策体系」について、市の総合計画である「将来ビジョン・岸和田」が策定されたため、その基本構想との関連した項目を29ページまで追加。各表の下には、関連する岸和田市文化振興条例とSDGsの目標をそれぞれ記載。
- ・ 30 ページ「5 文化活動の形態と振興の在り方」は、たたき案に記載がなかったため追加。内容は、現在の計画同様、この計画でいう文化活動とは創造・発表・鑑賞だけでなく裏方や支援などの参加も含んでおり、それぞれで交流促進しながら文化振興を図っていくというもの。
- ・ 40 ページ「2 浪切ホール、文化会館、自泉会館の役割」の下3行追加
- ・ 45 ページ「(2) 評価指標」のリード文の追加と表の変更。

(会 長) 1 ページ目本文5行目「これらのことにより」を「このように」とすると文章がわかりやすい。3段落2行目「産業や観光など波及効果を生み出すなど、地域ににぎわいや潤い、活性化させる力があります」を「産業や観光などに波及効果を生み出し、地域ににぎわいや潤い、活性化をもたらす力があります」の方がわかりやすい。下から2行目「その次の子どもたちへと受け継がれていく。」が、それ以外は全部「です・ます」調のため不自然である。再度表現を検討する必要がある。7ページの最後の段落が「明治期には。」が「。」になっている。正しくは、「、」である。

(委 員) 「めざそう値」30%をもう少し高く設定するという意見はどうなったか。

令和元年度は年配の方が多く活動をされており、高い数値になったのかと思う。コロナ禍も落ち着いてくるだろうから、50%を目標としてはどうか。

- (会 長) 今回の計画ではコロナ禍以前の数値も記載するということでよいか。
- (委 員) 資料1にDXについての意見があるが、維持費やセキュリティー面等でのデメリットがどの程度あるのか検討が必要かと思う。FacebookやInstagramであれば、無料での投稿が可能であるし、記事を一つ作成すれば同時更新が可能なので、それらを使用するのも良いかと思う。
- (会 長) AI技術やSNSは、日々新しいものが出てきて更新されている。状況を考慮すると、26ページ、重点目標2にあげているように「効果的な情報発信を行う」という表現にとどめるのは仕方がないことだと思う。
- (委 員) アンケート調査で現状がよくわかり、今後の課題もわかりよいかと思う。
文化的であると思う理由の割合ではまつりが一番多い。また、個人的に、過去1年間に直接鑑賞したものの割合では映画鑑賞が一番多いというのが意外であった。このアンケートの中で現状が浮き彫りになり、コロナ禍以前との違いもわかるのはよいかと思う。
- (委 員) 「めざそう値」について、コロナ禍以前の数値について想像より高かった。
コロナ禍を経て、人々の動きや考え方、行動範囲等多くのことが変わった。コロナ禍以前に戻るのかというと、着地点は違うのではないかと考える。我々の世代は、生のものを体感することがすばらしいことだと感じる事ができていたが、コロナ禍となり、オンラインが当たり前となり、生のものに接する機会がなかった子どもたちがいる。
コロナ禍以前と以後で本当に同じ世界が戻ってくるのか疑問がある。そうした中で、計画を配布した皆様がこの目標値をどのように受け取るのか。今後の新しい文化活動が目指すものがこの目標値で正しいのかと思う。
- (委 員) 謳うことは大事であるが、目標として掲げたものをどこまで実現できるのか。難しいことではないかと常に考えている。
文化活動は、施設の使い方が重要であると思う。最近、公民館が利用しにくいという声を聞く。費用の面というよりは、距離間の問題である。以前は、公民館を管理する職員が、使用する人の立場をもっと考えてくれていたのという声を聞く。このような問題は、お金で解決ができる問題ではないので、皆で考えていけたらと思う。
- (会 長) コロナ禍以前よりそういう傾向があったものが、コロナ禍によりさらに制約が多くなったのかもしれない。
- (委 員) 公民館の利用においては、気軽に利用できることが大切だが、こういうことをしてはいけないという制約が多くなったように感じる。
- (委 員) それが距離感の問題につながっているのではないか。
- (会 長) 様々な状況を見極めて計画を策定するのは難しい。状況により変更もあり得るという記載も

あるので、その時々で対応をしていく必要がある。

(委員) コロナ禍は誰もが経験したことの無いものである。オンラインの世界、手指消毒が当たり前となっている子ども達に、実物がよいからと、泥遊びがいいからと外に引っ張っていくことができるのか。

また、コロナ禍以前は、様々な事情を考慮して、お互い上手にすり合わせを行っていたように思う。しかし、コロナ禍で多くのことを強制され、その中で育った今の若者は規範意識が高い。そういう教育を受け、それが当たり前の世代とその規範を厳しいと思う世代での世代間での違いが出てくると思う。

(委員) コロナ禍は大きな影響があったが、3年である。3年という期間は、発達段階の子どもであっても取り戻すことができると感じる。子ども達の感性を伸ばすためにも、保育所・幼稚園を含め学校教育が大きな役割を果たしていくべきであると考えます。

(委員) コロナ禍を経験した若者であっても、WBCの時のように外に出て応援している若者も多かった。映画鑑賞が人気であったのも、今流行りのアニメの影響があるのではないかと思います。SNSの発達により横のつながりを持ち、アニメの聖地巡礼等で外出する若者は多い。文化を求めて、若者も外に出ているように思う。そういったところにも今後希望はあるのではないかと思います。

(委員) コロナ禍を経て様々なことが変わってきているのは事実だと思う。先日実施した合唱の演奏会でも、会場の指示によりマスク着用は自由であった。子ども達にマスクを外すことができる旨伝えたが、半数はマスク着用での合唱を希望した。マスクを外し、これまで通り普通に歌えることを喜ぶと思っていたので、マスク着用を希望したことに驚いた。今後徐々に変わっていくかと思うが、子ども達がマスクを外して歌いたいと自然に思うようになるのはまだまだ時間がかかるのではと考えている。

(委員) SNSを使っている若者と、そうではない年代とのギャップも大きいと思う。しかし、先日、生の演奏会付きのバレエを親子3世代で鑑賞してきた。久しぶりにその感動を3世代で共有することができた。文化的な力をあきらめずに、今後頑張っていけたらと感じている。

資料1の作業部会で郷土文化課が指摘しているように、「謝礼など対価を支払う」ということは大切であると考えます。私が運営しているのは民間のホールであり、補助金もないため、主催コンサートがなかなか実施できていない。こういった面も充実してもらえたらと思う。

(副会長) 素案は、今後多くの方の目に触れていくものになる。細かい文章表現も含め、この審議会のメンバーが責任を負い、さらに充実したものを作成していくべきである。

表紙について、「文化 花 咲かそう推進プラン」の文言が大きく目立つようにすべきである。「第2期岸和田市文化振興計画」はサブタイトルとして小さめに修正してほしい。

また、素案8ページ中の、「平成27年には文化 花 咲かそう推進プランが策定されました」の「文化 花 咲かそう推進プラン」は名称であるため「」で囲むこと。

コロナ禍以前に戻ったらよいという考えは確かにあるかと思う。音楽分野では、お客さんが戻ればいい。演奏会が開催できればいい。本当にそうなのだろうか。確かにコロナ禍の影響を受け、音楽家を廃業した仲間も多い。日本では、ドイツのように音楽家に手厚い制度はないので、音楽家の自力での解決が必要。自分の演奏が人に感動を与えるのかどうか。後輩たちにもその自覚が必要ということ強く指摘している。芸術家自身の覚悟が今問われているということ、芸術家自身も自覚すべきである。

「文化 花 咲かそう推進プラン」が冊子になり、その内容を具体化していくために、行政の予算を使い実現に向けて動いていく。芸術家自身もその価値があると思わせる努力をしていくべき。

(会長) 表紙については、意見が出たように、「第2期岸和田市文化振興計画」を小さくする等の修正をお願いしたい。

(事務局) 表紙については、現在の計画と同じようなものを、デザイン性も加えて工夫をしていく予定である。

(会長) 今日の議題は「文化 花 咲かそう推進プラン」であったが、コロナ禍の後、文化・芸術の推進のためにどうしていくのがいいのかというところまで話がすすみ、命題が与えられたように感じる。

個人的な話になるが、1月に阪南市の芸術鑑賞会を見に行った。沖縄の団体によるミュージカルであったが、鑑賞後、全く知らない小学校4年生くらいの男の子が、「すごかった。よかった。直接生で見たらすごく面白かった。」と話しかけてきた。すごくうれしかった。画面しか知らない子どもも多いが、直接見ることに感動してくれる子どもも一定数いるということを実感した。直接見る機会を失くしてはいけないなと強く思った。

議題(3) 今後のスケジュールについて

資料3に基づき、今後のスケジュールについて説明。

■ 3.その他

- ・3月26日に実施された令和4年度大阪文化賞贈呈式の報告（岸和田市出身の塩田千春氏が受賞）
- ・今年度の事業について報告。その他の事業についてチラシを配布。

(委員) 浪切合唱団は市の合唱団か。

- (委員) 浪切ホールの企画事業の中の一つとして取り組んでいる合唱団である。
- (委員) 岸和田文化事業協会では、アーティストバンクを作った。音楽家に企画等のプレゼンをしてもらい、ワークショップも開催予定。どうしたら音楽家として成功できるのかセルフプロデュース力を育てていく予定である。
- (委員) 今成功している音楽家はセルフプロデュース力の高い人が多い。ホール側としても演奏家から「こういう演奏会がしたい」と声がかかったほうが動きやすい。
- (委員) 南泉州地域は文化が低いと言われているが、若手音楽家たちを育てることで、南泉州地域のPRになればと考えている。また、若手音楽家たちを育てたということで、他地域から優秀な音楽家が集まってくれたらと考えている。
- (委員) 音楽は、いいものは、やはりいい。上手に弾けるだけでなく、いいものを弾く人は、人に訴えかけるものがある。その違いは一般の人でも感じるすることができる。そういう人を育てていくことが大切。
- (委員) 岸和田市展の賞は必要ないのではないかと。受賞に至らなかった応募者から理由を聞かれることはないのか。
- (事務局) 岸和田市展の賞は、市展委員会の審議において、目標となるものが必要であると判断し実施している。過去受賞に至らなかった応募者からの問い合わせについてはゼロではないが、市展期間中に作品解説の時間を設け、各分野の委員に受賞に至った理由を説明してもらっている。
- (委員) 鑑賞者から出品者に対する感想を書いてもらってはどうか。
- (事務局) 過去にオーディエンス賞を検討したこともあるが、例えば写真部門で100点以上のものが集まる中で受賞する票数を獲得できるのか等の問題もあり、実現には至っていない。出品者に鑑賞者の感想を届けるというのは新たな考えのため、検討事項としていけたらと思う。
- (委員) 出品数が多い分野と少ない分野の賞の数が一緒なのはいかがなものか。
- (事務局) 賞については5賞あるが、市長賞等は該当なしということも可能な運営を行っている。また、佳作については出品数に応じての数としている。

■ 4.閉会